

県外児童ら伸び伸び演技

福井の民話現代的感覚で創作劇

住民と協力、会場沸く

伊自良館



福井市東部の上味見地区で、農村生活などの体験活動をしている関西地区の子どもたちが十六日、同市^{なごん}中手町の伊自良館で、地元で伝わる民話に基づいた創作劇を披露した。子どもたちは地域住民との交流を深めながら、協力し合って劇を成功させた。

同市の特定非営利活動法人(NPO法人)

「自然体験共学センター」の事業に、十日から参加している小学五―中学二年生の子どもたち十五人が上演。参加者仲間の子どもたちや地域住民ら計百人が観劇した。

劇は三部構成で、同市^{なごん}神当部町に伝わるいたずらキツネの民話「ぎよんどぎつね」や、戦の邪魔をしたキュウリの民話「神当部キュウリ」をモチーフに、子どもたちが現代的な感覚で創作。子どもたちの伸び伸びとした演技に会場は大いに沸いた。

子どもたちは各地区を巡って民話を聞いたり、地元の市民劇団

福井の民話に基づいた創作劇を演じる子ども
福井市の伊自良館で

「ババーズ」と交流しながら劇を仕上げてき

た。同NPOの辻一憲(つじいけん)理事長は「地域住民の力を得て、仲間と協力した。」と話している。(正津聡)